12　満州鉄嶺　山本森之助

大正六年（一九一七）　油彩・カンヴァス
八九・二×一一四・八

中川八郎の「鳴門瀬戸」（作品番号8）と同様、立太子礼を祝って文官一同が献上した七面の油彩画の一つ。この時同じく外地の風景を任された石川寅治が台湾へ、安田稔が樺太、中沢弘光が朝鮮と、それぞれの担当の土地へ赴いたのと同じように、山本も大正六年に満州へ写生旅行に出かけている。

山本が献上画の題材に選んだのは、中国遼寧省北部の鉄嶺市にある龍首山であった。高台から見下ろしているのか、目線の正面に立つ龍首山の頂には特徴的なラマ塔（チベット仏教の仏塔）が建ち、眼下に広がる草原では運搬用のロバがのどかに草をはんでいる。大地の緑と空の爽快な青は、作者特有の細かい筆のタッチによって複雑に重ねられた鮮やかな色合いで表現され、作者が現地で感じた空気や風、光がそのまま画面を通して伝わってくるようである。また大地にのこった馬車の轍など、現地写生ならではと言える細かい描写も認められる。

山本は本図の他にも、同じく大正六年の第十一回文展に出品した「満州の一部」など、この時の写生をもとにした満州の風景画を何点か残しており、草原がどこまでも続くその壮大な風景に創作意欲をおおいにかき立てられたことがわかる。画面左下には献上するにふさわしい「山本森之助謹寫」という謹直なサインが入れられている。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し
三の丸尚蔵館展覧会図録No.52

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十二年十月三十日発行

©2010, The Museum of the Imperial Collections